

第2学年 国語科学習指導案

研究主題

どの子も自信をもって書くことができる指導法の工夫
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

めざす児童像

- 事柄の順序に沿って書くことのできる子
- 自分の思いや考えを進んで書こうとする子
- 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うことができる子

1. 単元名 楽しいな、2年生

2. 教材名 学校や家での生活を題材にして

3. 単元の目標

- ◎書こうとする題材に必要な事柄を集めて書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎事柄の順序に気を付けて、「はじめ、中、おわり」の構成で、文章を書くことができる。【書くこと】
- 正しい表記を使って、様子や気持ちを書いている。【言語事項】

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	・楽しかったことやがんばったことを思い出し、文章で表そうとしている。
書くこと	・事柄の順序に気を付けて、文のつながりを考えながら書いている。 ・はじめ・中・おわりを意識して書いている。 ・関連することを思い出したり取材したりしている。 ・文章を読み返し、間違いを正している。 ・よいところを見付け、感想を書いている。
言語事項	・助詞や句読点、かぎ（「 」）を正しく使っている。

5. 単元について

(1) 児童の実態 意識調査 (1 学年 93/94 名→2 学年 95 名)

設問	回答項目	平成 24 年 5 月	平成 25 年 2 月	平成 25 年 7 月
① 国語の勉強は好きですか。	好き	63 人(67%)	62 人(66%)	63 人(67%)
	まあまあ好き	20 人(22%)	29 人(31%)	27 人(28%)
	あまり好きではない	10 人(10%)	3 人(3%)	5 人(5%)
② 本を読むことは好きですか。	好き	73 人(78%)	83 人(88%)	82 人(86%)
	まあまあ好き	12 人(13%)	8 人(9%)	12 人(13%)
	あまり好きではない	8 人(9%)	3 人(3%)	1 人(1%)
③ 書くことは好きですか。	好き	62 人(66%)	74 人(79%)	64 人(68%)
	まあまあ好き	23 人(25%)	14 人(15%)	22 人(23%)
	あまり好きではない	8 人(9%)	6 人(6%)	9 人(9%)

◆考察

1) 各質問について

①の設問に対して、「好き」と「まあまあ好き」を合わせると 95%の児童が好きと答えていることから、おおむね良好といえる。

1 年前 (89%) と比べても 6%の伸びを見せ、「あまり好きではない」においては半減していることから、研究の成果の表れといえよう。

②の設問に対して、1 名を除いてほとんどの児童が「好き」「まあまあ好き」と答えている。1 年前と比べても、先の質問の回答同様に 6%の伸びを見せた。

「あまり好きではない」児童においては、8%も大きく減少した。これは、「国語の勉強が好き」になるとともに、「読む」力がついたことによると考えられる。

③の設問については、「好き」「まあまあ好き」を合わせた割合は、1 年前とあまり変化はない。ただ、この割合が 91%と高い数値を示していることから、それを維持できたことに意味があると考えられる。

2) 課題について

どの項目についても、肯定的な回答に高い割合を示すとともに、1 年前に比べても確実な変容を示しているが、課題としては次の 2 点が挙げられる。

○「あまり好きではない」児童を、どうしたらなくせるか。

○「まあまあ好き」な児童を、どうしたら「好き」にさせることができるか。

「あまり好きではない」と答えた児童の実態を見たとき、「自己肯定感が低い」ことが挙げられる。改善にむけては、二つの手だてを講じたい。

一つは、国語に限らず学校生活のいろいろな場面をとらえてよさを見付け励ますこと。

もう一つは「書くこと」の活動に関して、お互いの作品を読み合う鑑賞の時間を大切にし、それぞれの作品のよさを認め合うことを通して自信をもたせ、その積み重ねにより自己肯定感を高められるようにしたい。

◆学年の児童の実態

特に、2年生になってからの進歩として挙げられることは、「課題や目標を与えられると、着実に、前向きに取り組む」児童が多くなったことである。

左記アンケートでは、「好き」「好きではない」という実態が把握できるが、「書くことになれましたか」「書くことの力はつきましたか」という質問については、ほぼ全員の児童が「はい」と答えた。

つまり、「書くこと」への抵抗がなくなったのである。

また、担任が児童の作文に評語を入れるだけでなく、単元のねらいに迫るようなよい作文を印刷し全員で読み合うようにしたところ、「ぼくのは、いつ読まれるのかな」と期待したり、「私もそう思ったよ」と共感したりする児童が多くなったりしたことからも、「書くこと」への意欲の高まりの表れだと考える。

(2) 単元設定の理由

3月に位置づけられている「楽しかったよ、2年生」では、一年間の「書くこと」の学習の総仕上げとして、それまでに獲得した技能を活用して、最も書きたいことを書くという活動を想定している。本単元では、4月からの半年で身につけた技能を駆使して身近な生活の中から書きたいこと、伝えたいことを選んで書くという活動を設定した。生活科と関連させた学習材や家での生活の中から題材を選ばせ、クラスみんなに読んでもらうという書く目的をもたせた上での活動となる。

ここでの学習を通して、学年後半の「書くこと」への意欲がさらに高まることを期待したい。

(3) 学習材について

生活科との合科を意識して設定したことで、学校での「書くこと」の題材が常に用意されていた。それは、「書くこと」の生活化につながっていたと言える。

「くつ洗い」については、体を使っての作業ゆえ児童は意欲的に取り組むであろうと考えた。また、そのことが、児童の家庭での仕事の一つに加わってほしいという願いも込められている。

さらには、くつ洗いのための「はじめ」の準備、「中」としての作業、仕上がった後の「おわり」の思いは、まさに作文でのめあての一つである「はじめ・中・おわり」を意識させやすい教材だと言える。

6. 主題に迫るための指導の工夫

(1) 児童の興味・関心をもたせる単元計画の工夫

上記「学習材について」でも触れているが、生活科との関連を考えたことが児童の興味・関心をもたせることにつながったと言える。

7月までの作文の重点とした「ようすをくわしくあらわそう」においても、生活科との関連を工夫したことで、児童は、対象としたものの色や形、大きさを注意深く観察するようになってきた。

従来は、生活科での気づきや思いを〈カード〉に記すことで終わっていたが、作文の年

間計画に組み入れたことで、その気付きや思いを掘り起こして想起させることにつながった。

(2) 共通教材・モデル文の工夫

これまでの指導では、ややもすると「さあ書いて」と、ただ投げかけるだけのことが少なくなかった。書くことにおける作業は、個々の力量や生活体験によるところが大きいいため、個人差は致し方ないと考えがちであったように思う。

ところが、この研究により、共通教材やモデル文、「練馬の子ら」（練馬区文集）の提示を通して、その表現のこつや押さえるポイントを全体で学ぶ活動を取り入れたことで、「どの子もこつやポイントさえ分かれば、書けるようになるのだ」ということに気付かされた。

また、そのためには、いかに適切で児童の実態に見合った共通教材やモデル文を提示できるかどうか重要であることがわかった。

(3) ワークシートの工夫

本単元において、三つのワークシートを用意した。

一つは、自作のモデル文。これは、学年の「書くこと」の目標に照らし合わせて、最低限これだけは押さえないという形式をモデル文として作成し、児童に提示した。

二つめは、作文のタネ（題材）さがしカードである。毎週木曜日の作文の時間に向けて、毎日の生活の中から作文のタネを探すためのカードである。ただ探すのではなく、

- おじいちゃんやおばあちゃんとしたことやしてあげたこと
- 進んでおうちの人のお手伝いをしたこと
- 季節を感じたこと

などのめあてをもたせたことで、「タネが見つかりません」という声は聞かれなくなった。

三つめは、記述における作文用紙の工夫である。市販の原稿用紙ではなく、書きたいことを明確にさせるために、絵を描くスペースも入れたこと、自由に書けるようます目ではなく、縦罫のみにした。こうしたワークシートの工夫は、児童の作文への意欲や書く際の焦点化に役立ったと言える。

7. 指導計画（国語全 11 時間 生活科 3 時間 ）

次	時	学習活動	☆手だて ○指導上の留意点 ◆評価【方法】	生活科との関連
1 次	第 1 時	○作文の題材の書き方を 知り、「たのしいな、2 年生」で文集を作る学 習の見通しをもつ。 ○カードに題材になる出 来事を思い出して書く。 ○題材の中から、選んで 作文に書く。	○いつ、だれに、何をして、どう思ったと いう観点から、簡単なメモを書かせる。 ○題材を集めるときの観点を示す。 ・進んでお手伝いをしたこと ・進んで親切をしたこと ・季節を感じたこと ○10 分作文は、「いつ、どこで、だれが」 をはっきりさせて書かせる。 ○関連させて、続きの時間で作文を書かせ る。 ◆いつ、どこで、だれがを入れて、作文に 書くことができたか。【ワークシート】	
	第 2 時	○題材の中から、選んで 作文に書く。	○10 分作文で「丁寧な言い方」で書かせる。 ○関連させて、続きの時間で作文を書かせ る。 ◆丁寧な言い方で作文を書くことができた か。【ワークシート】	
	第 3 時	○題材の中から、選んで 作文に書く。	○10 分作文で「会話文」の書き方を復習す る。 ○関連させて、続きの時間で作文を書かせ る。 ◆会話文を入れて書くことができたか。 【ワークシート】	
生 活 科	第 1 時			「お手伝い作戦パ ート2」 ◎学習の見通しを もつ。 ◎上ばき洗いをす る。
			モデル文での学習	
		「うわばき洗いをしたこ と」		

2 次	第4時 (2組本時)	○モデル文を読み、「はじめ、中、おわり」の部分や、順序を表す言葉などを探す。	○生活科での作業を思い出させ、モデル文から中身を読み取らせる。 ・「はじめ、中、おわり」の部分 ・いつ、どこで、 ・気持ち ・音 ・色 ・会話 ☆「練馬の子ら」から学ぶ。	
	第5時	○自分の体験から、モデル文に合わせて、作文を書く。	○「はじめ・中・おわり」の構成に気付かせる。 ○動きや様子、気持ちを表している言葉に気付かせる。 ○「はじめ・中・おわり」の構成を意識させる。 ◆書き方のこつや工夫に気付くことができる。【発言・ワークシート】 ◆順序や様子を、よく伝わるように書こうとしている。【ワークシート】	
生活科	第2・3時			「めざせ野菜名人」 ◎サツマイモの収穫 ◎収穫したサツマイモを使って、芋けんぴを作る。
3 次	共通教材での学習			
	第6時	「サツマイモほり」 ○サツマイモ掘りに行ったことを思い出し、短冊に書く。 ○はじめ、中、おわりの順に並べる。	○サツマイモ掘りの様子を思い出させ、短冊に書かせる。 ☆「練馬の子ら」(練馬区文集)から学ぶ。 ○文章の構成を意識させる。 ○様子を詳しく書く。(色、音、におい、会話)	
	第7時	○モデル文の「使いたい表現」を入れて作文を書く。	◆「はじめ・中・おわり」の構成を意識している。【ワークシート】 ◆順序や様子を、よく伝わるように書こうとしている。【ワークシート】	

第 8 時	共通教材での学習		
	「いもけんぴづくり」 ○芋けんぴを作ったことを思い出し、短冊に書く。	☆芋けんぴ作ったことを順序よく思い出させる。	
	○短冊を文章の構成に合わせて並べる。 ○モデル文の「使いたい表現」を入れて作文を書く。	☆文章の構成を意識させる。 ☆様子をくわしく書く。(音、色、におい、会話) ◆順序や様子を、よく伝わるように書こうとしている。【ワークシート】 ◆「はじめ・中・おわり」の構成を意識している。【ワークシート】	
第 9 時 (3 組 本 時)	個別教材での学習		
	「家であったこと」 ○日記のタネ探しから書きたいことを決めて作文を書く。	☆文章の構成を意識させる。 ☆様子をくわしく書く。(音、色、におい、会話) ◆順序や様子を、よく伝わるように書こうとしている。【ワークシート】 ◆「はじめ・中・おわり」の構成を意識している。【ワークシート】	
4 次	第 10 時	○作文を発表し、感想を伝え合う。	◆作文を書くときに大切なことに注意しながら、友達のよさを見付けることができる。【ワークシート・発言】
	第 11 時 (1 組 本 時)		

8. 本時の学習 (4/11)

2年2組 指導者 小林 健

(1) 目標

◎生活文(「練馬の子ら」の作品)からよい表現や文章の構成に気付くことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】
導入	1. 前時の学習を振り返る。 教師の提示したモデル文「うわばきをあらったこと」から見付けた文章の構成やよい表現を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 前時:モデル文「上ばきをあらったこと」から文章の構成やよい表現を見付ける。 </div>	☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】 ○前時のモデル文「上ばきをあらったこと」からよい表現や文章の構成を見付けたことを思い出させる。 ☆教師が作成したモデル文を掲示する。
展開	2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 生活文を読んで、よい表現や書き方を見つけよう。 </div> 3. 「練馬の子ら」の生活作文の作品を読み、良い表現や書き方を見付ける。 (練馬の子ら鑑賞) 4. 個人でよい表現にサイドラインを引く。 5. 隣の人と見付けたよい表現を見合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 『練馬の子ら』のよい表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">いつ</div> 毎週日曜日 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">何を</div> 上ばきをあらいます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">順序を表す言葉</div> はじめに、 つぎに、 さい後に、 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">様子を表す言葉</div> でこぼこ シャカシャカ ショコショコ ぴかぴか 「おくのほうまであらってね。」(会話) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">気持ち</div>「もっとお手つだいをしたいな。」 「早くよごれをおとしたいな。」 おんがえしができたような気がして 「いつもありがとう。」 </div> 6. 見付けたよい表現を発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ≪指導事項≫ 文章の構成・・・「はじめ」「中」「おわり」 「はじめ」○いつ、何をしたか ○どこで、だれと ○やる前の気持ち ----- 「中」○した通りに順序よく書く。 ○様子をくわしく書く。 (・音・色・におい・会話) ○その時に思ったこと ----- 「おわり」○全体を通して思ったこと。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> サイドラインの種類 順序を表す言葉 四角囲み 様子を表す言葉 直線 _____ 気持ちを表す言葉 波線 ~~~~~ </div> ☆文章の構成を意識させる。 ☆様子を詳しく表す表現を意識させる。 ☆指導事項を意識して、「練馬の子ら」を読ませる。 ◆動きや様子がよく伝わる表現を見付けている。【ワークシート・発言】 ◆「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識している。【ワークシート】
まとめ	7. 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	○次時は、共通教材「サツマイモほり」で学習することを伝える。

8. 本時の学習 (9/11)

2年3組 指導者 奥 律枝

(1) 目標

◎「はじめ・中・おわり」を意識して順序よく書くことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】
導入	1. 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	○芋けんぴを作ったことを思い出す。
展開	<p>2. 本時のめあてを知る。 ・順序よく書くことを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">順序や様子を考えて書こう。</div> <p>3. 「はじめ」を書く。 4. 作った順を思い出す。 5. 「中」を順序よく書く。 6. 各自で読み直す。 7. 隣同士で読み合う。 8. 読み合った中から、学習したことを使って、よく書けている作文を推薦し、発表する。</p>	<p>○「はじめ」に書くことを確かめる。 いつ、どこで、何をやる前に思ったこと ☆写真や言葉で、掲示する。</p> <p>○「中」で書く順を確かめる。 はじめに、次に、それから、最後に ○様子や会話、気持ちをを入れて書くようにする。 ☆様子がよく分かるように書くことを意識させるため、モデル文を掲示しておく。</p> <p>◆順序を表す言葉を使って、「中」の部分を書くことができる。【ワークシート】</p> <p>○発表に際して、まず、各自で読み合いをさせた後、隣同士で読み合う。 ○全体で紹介したい人を推薦させ、発表させる。</p> <p>◆音、色、動きの様子の書き方を見付けている。 【ワークシート・発言】 ◆主語と述語を意識して書いている。【ワークシート】</p>
まとめ	9. 「はじめ・中・おわり」を意識して書けたことを振り返り、次時の見通しをもつ。	○次回、「おわり」の部分を書くことを知らせる。

8. 本時の学習 (11/11)

2年1組 指導者 須佐 陽子

(1) 目標

◎友達の作文を読み合い、その表現の仕方や心の働かせ方のよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】
導入	1. 前時までの学習を想起する。 ○作文を書くときに、どんなことに気を付けて書いたか発表する。 ・作文のタネ (題材) ・「はじめ」「中」「おわり」 ・形、色、大きさ ・会話	☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】 ○今までにどんなことに気を付けて作文を書いたか想起させる。 ☆前時までのことを想起しやすいように、これまでに学習したモデル文を掲示しておく。 ◆作文を書くときに気を付けることを想起している。【発言】
展開	2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">友達の作文のよいところを学び合おう。</div> 3. 隣同士で、作文を読み合う。 4. 友達の作文を全体で鑑賞する。 5. 気付いたことを発表する。 ○表現の仕方のよいところは、 組み立て、会話 様子が詳しく書けているところ ○生活ぶりや心のはたらかせ方のよいところは、 気持ちがよくわかるところ ○作者に質問したいところは、	○本時は、これまでの作文のまとめであり、学んだことを生かして友達の作文を読み合うことを知らせる。 ☆これまでに書いた自分の作文の中で最もよかった作品を、事前に自分で選ばせておく。 ☆事前に選んでおいた児童作品には、後に発表しやすいように行数字を入れ、児童が書き込めるように脚注部分を空けておく。 ○これまで学習した鑑賞の観点に沿って、脚注に書き込ませる。 ○書き込んだことをもとに、左記の観点に分けて発表させたい。 ◆作品を読み合うことで、作品のよさや価値に 気づき、共感することができている。 【ワークシート・発言】
まとめ	6. 本時の学習を振り返る。	○個々で学んだことを、これからの作文に生かしていくとよいことを知らせる。